

# Isonoe ISO420

ISO420のオーディオ仕様は最新のものですが、その品質は、スチューダーやテレフンケンなどの企業が耐久性の基準を設定した、60年代や70年代の栄光の時代を彷彿とさせる品質です。モジュール式の内部レイアウトと2層構造のエンクロージャーは、今後何十年にもわたって最高の堅牢性と保守のしやすさを保証します。

各チャンネルには、レコード間のマスタリングの違いを補正するために特別に設計されたシルキーでスムーズなシェルビングEQを搭載しています。このEQは歪みが少ないため、最大ブースト時でも人工的で箱鳴りしたような音になることはありません。

何年もかけて丹念に設計・改良され、細部にわたって考慮されています。

ISO420の直感的なレイアウトは数秒で習得でき、12インチ四方の大きさで、レコードと同じフライトケースに収めることができます。

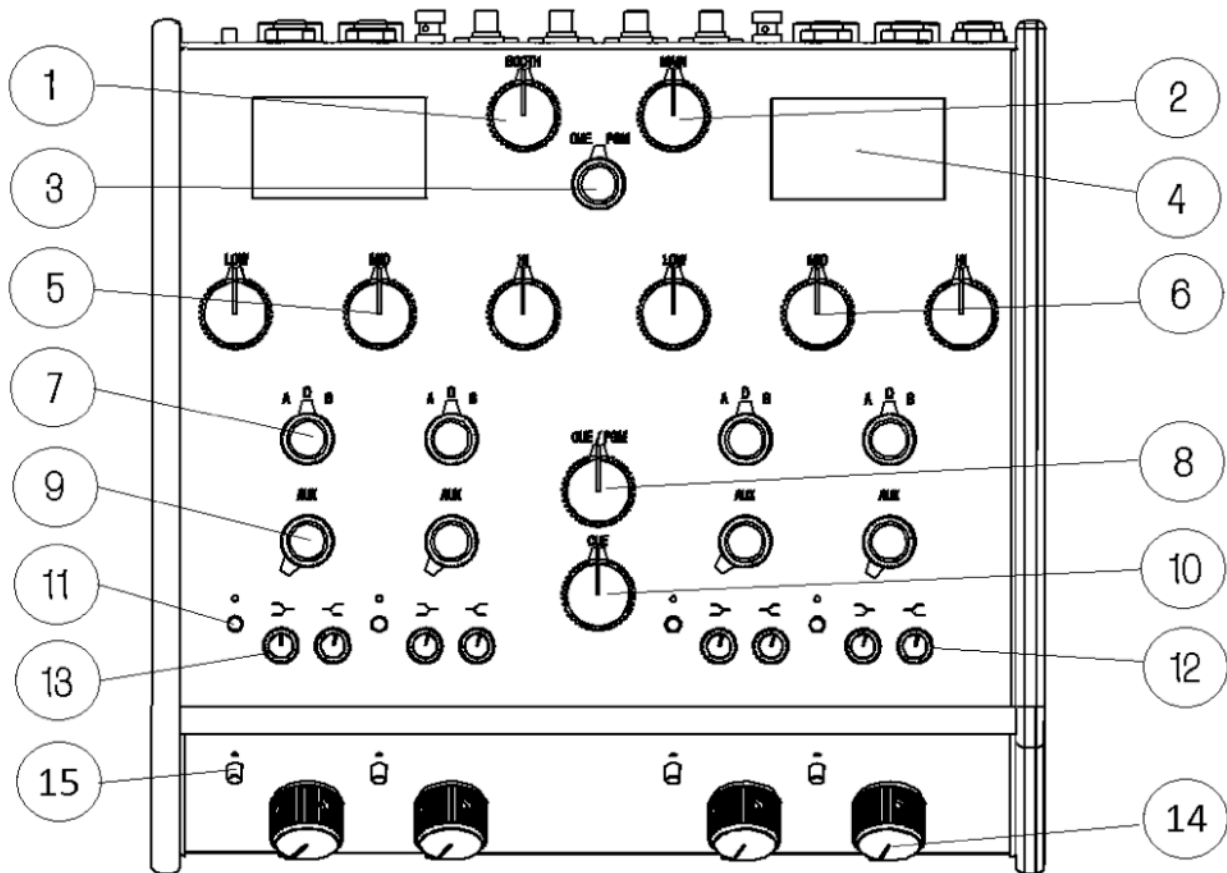
ISO420は、数十年の経験を持つ熟練した職人によって、ひとつひとつが手作業で製作されています。また、デジタル・ハードウェアとは異なり、アナログであるため、将来にわたってその価値を維持することができます。

## [基本事項]

ISO420を使用する前に、以下のことに注意してください。

- ・ ミキサーのON / OFFを行う前に、スピーカー、アンプなどの電源を切っておくことをお勧めします。ミキサーの電源を入れたり切ったりすると、回路に電流 / サージが流れ、「プツ」というポップ音が発生します。
- ・ 電源の上に物を置いたり、ヒートシンクを覆ったり、空気の流れを妨げたりする物がないことを確認します。
- ・ 電源コードを接続する前に、5ピンDCケーブルがミキサーとパワーサプライに接続され、両方のナットが締め付けられていることを確認します。
- ・ 電源がアクティブになると、緑のスイッチが点灯します。パワーサプライは85VACから240VACまでのあらゆる電圧に自動的に適合されます。
- ・ 必ずアース接続されたIEC電源コードを使用してください。この規格に適合しない電源コードを使用して、本機を使用することは絶対に避けてください。
- ・ 付属のRCAジャンパー線がLOOP OUTとLOOP INの間に接続されていることを確認してください。接続されていない場合、音が鳴りません。
- ・ 直射日光や、電源、アンプ、ヒーターなどの熱を発生する機器から離れた場所に設置してください。
- ・ 操作や保管の際には、過度の汚れ、ほこり、熱、振動から保護してください。
- ・ タバコの灰、飲み物、煙、特に喫煙の煙がかからないようにしてください。共振や振動のある場所に電源ユニットを設置しないでください。

## [パネルレイアウト]



### 1) ブース出力レベル

ブース出力の信号レベルを調整します。

### 2) メイン出力レベル

メイン出力の信号レベルを設定します。各出力には独立したアンプがあり、出力間の相互干渉を防ぎます。

### 3) メーターモニターセレクトスイッチ

左の位置では、メーターはキュー／マスター・ブレンド・コントロールで選択された信号をモニターします。右の位置にすると、メーターはマスター出力のレベルをモニターします。

### 4) レベルメーター

各メーターは、 $0VU = 1V\ RMS$  でキャリブレートされています。

## 5) アイソレーターA

## 6) アイソレーターB

## 7) アイソレータのアサイン

「A」の位置の場合、各チャンネルはアイソレーターAにアサインされます。「D」はダイレクトを意味し、両方のアイソレーターがバイパスされます。「B」の位置の場合、アイソレーターBにアサインされます。これらのスイッチには音声は流れず、リレーに制御信号を送るだけなので、最短の信号経路と世界最高レベルのクロストーク性能を確保しています。

## 8) キュー/マスター・ブレンド・コントロール

左側いっぱいに設定すると、キューの音声のみをヘッドフォン出力に送ります。右いっぱいに設定すると、メインの音声ヘッドフォン出力に送られます。中間の位置では、2つの音声クロスフェードします。

## 9) Auxiliary出力

このコントロールはポストチャンネルフェーダーで、背面のAUX出力コネクタに送られる信号レベルを決定します。

## 10) キュー・レベル出力

ミキサーを初めて使用するときは音量にご注意ください。ローノイズ設計のため、多くのミキサーのヘッドフォン出力に見られるようなヒスノイズは聞こえません。

## 11) EQエンゲージ・ボタン

EQがインサートされると、その上のLEDが点灯します。このミキサーには、ノイズや歪みを生じさせる「ゼロクロス」回路は搭載されていません。(ヒスやディストーション、余分な回路が追加されることを防ぐため) そのため、アイソレーターやEQをオンにする場合には、チャンネルフェーダーを下げた状態で行うのがベストです(そうしないとポップ音が発生します)。この回路の歪みとノイズは、高性能のアナライザーでしか測定することができません。

## 12) ハイシェルフEQ

## 13) ローシェルフEQ

EQに使用されているノブは、多くのOEMがアイソレーターに使用しているのと同じ16mmのALPSポットにマウントするために特別に加工されています。これらのコントロールは6mmシャフトにマウントされ、過酷な使用に耐えることができる頑丈なものです。

#### 14) チャンネルフェーダー

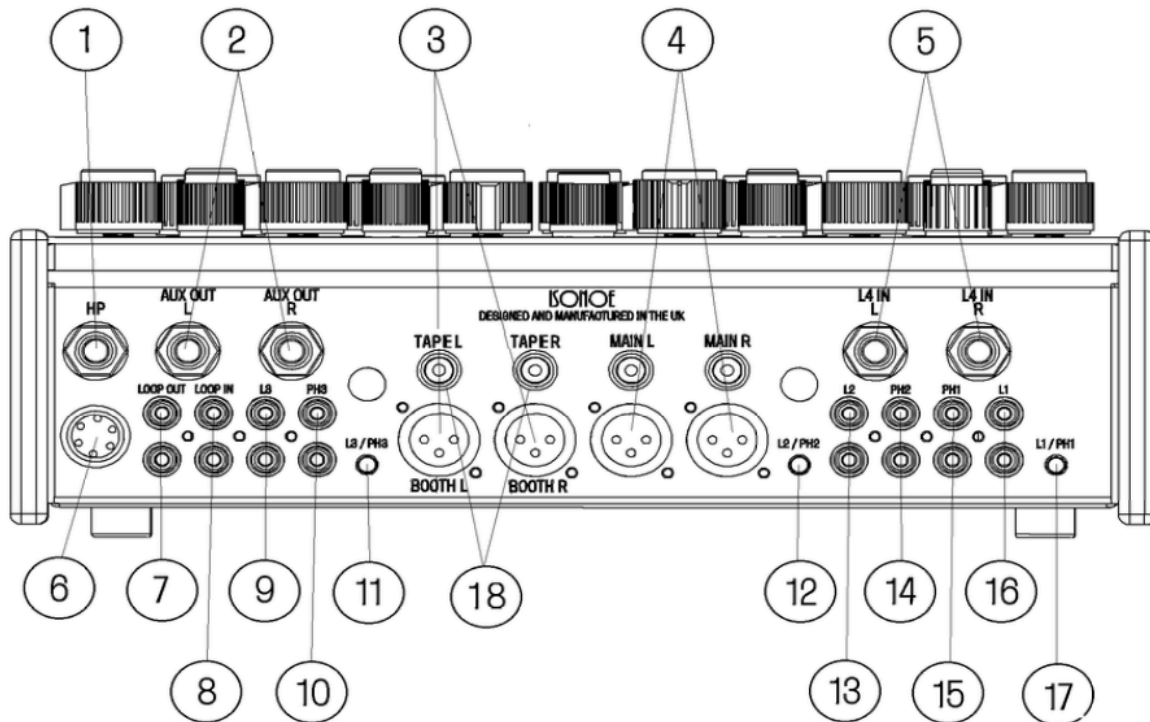
ミキサーは 時代遅れのTL07シリーズのオペアンプで設計されているわけではありませんので、各チャンネルとメイン/ブースフェーダーを時計回りに最大に振り切った状態でも、0.0003%（1KHzで）以下のTHD（歪み率）を実現します。※非常に歪みとノイズが少ないことを示しています。

#### 15) PFL キュー・セレクト

押した状態にするとチャンネルのプリフェード信号がPFLバスに送られます。LEDによって、そのチャンネルのPFLのセレクト状況を知ることができます。

### [背面レイアウト]

Figure 2 - Connections



1) 1/4インチ ヘッドホン出力

フロントにある3.5mmジャックと同時使用可能

2) AUX出力

1/4インチ TRSケーブル、またはTSケーブル (6dB下がることなく自動で適合)

3) ブースXLR出力

XLRケーブル、またはRCAケーブル (6dB下がることなく自動で適合)

4) メインXLR出力

XLRケーブル、またはRCAケーブル (6dB下がることなく自動で適合) アモルファスコア・ルンダール・トランスで絶縁。トランスは負性インピーダンス回路で駆動され、トランスによる歪みの発生を防いでいます。

5) AUX 入力

1/4インチ TRSケーブル、またはTSケーブル

6) DC電源入力

7) ループアウト

メインミックスバスからの出力がここに送られます。付属のジャンパー線を使用してループインに戻すか、外部プロセッサ (マスターイコライザーなど) をインサートすることが可能です。

8) ループイン

外部プロセッサを挿入しない場合、付属のジャンパー線で Loop Outに接続することで音が出ます。外部プロセッサを挿入した場合は、プロセッサの出力と接続します。

9) ライン3 インプット

入力インピーダンス=100Kオーム

10)フォノ3 インプット

47K オーム/100pF RIAA プリアンプ入力

11) チャンネル3入力切替スイッチ

フォノ3 or ライン3

12) チャンネル2入力選択スイッチ  
フォノ2 or ライン2

13) ライン2 インプット  
入力インピーダンス=100Kオーム

14) フォノ2 インプット  
47K オーム/100pF RIAA プリアンプ入力

15) フォノ1 インプット  
47Kオーム/100pF RIAAプリアンプ入力

16) ライン1 インプット  
入力インピーダンス=100Kオーム

17) チャンネル1入力選択スイッチ  
フォノ1 or ライン1

18) テープアウト  
この出力は録音用に設計されており、マスターやブースポットでの調整とは無関係にレベルが変化します。ミックスバスから直接出力されます。